

令和3年度 第3回

地域包括支援に関する会議

## 資料 3

### 2 報告

(3) 福祉用具適正利用の本実施について



## 福祉用具適正利用に向けた計画点検事業の本格実施について

### 1 目的

「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」で示された介護給付の適正化の一環として、リハビリテーション専門職が、福祉用具の必要性や利用状況等について福祉用具貸与計画や訪問によって使用状況等を確認することで、安全かつ適切な使い方の伝達や助言等の支援を実施するとともに、支援を通して福祉用具利用に関する課題等を確認し、今後の福祉用具の効果的活用および高齢者の自立支援の推進につなげる。

### 2 概要

令和3年度に市内2ヵ所（小倉北区・若松区）において、要支援者の福祉用具貸与計画についての点検を試行実施し、一定の成果が得られたことにより、令和4年度より全市において本格実施するもの。

#### (1) 実施方法

北九州市地域リハビリテーション支援センター（東部・西部）へ委託により実施

#### (2) 対象とする事例

要支援1・要支援2の対象者のうち、下記に該当する事例

- ① 地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の新規事例のうち、福祉用具貸与（手すり・歩行器・歩行補助つえ及び電動車いす）を利用している事例
- ② その他福祉用具について相談したい事例

#### (3) 実施内容

- ① 地域包括支援センターで抽出したケアプランに対してリハビリテーション専門職が点検を行い、書面にて助言・提案を行う。
- ② 必要に応じて同行訪問の提案を行い、同行訪問を行った事例については、後日モニタリングにより経過を確認する。
- ③ ケアプラン点検に関わらず福祉用具について相談事例があれば、随時対応を行う。

### 3 スケジュール

令和4年4月～5月 居宅介護支援事業所・福祉貸与事業所への周知  
〃 6月 ケアプランの点検開始

### 4 今後の方向性

- (1) ケアプラン点検内容や同行訪問等による介入事例等の集約を行い、効果的な福祉用具の活用事例等について研修会や資料集等により啓発を行う予定。
- (2) 事業を実施する中で課題の整理を進め、効果的な実施方法を探り改善を図ってきたい。

## ＜令和3年度モデル実施について＞

### 1 モデル実施期間

令和3年9月～令和3年12月

### 2 モデル実施区

小倉北区（北九州市東部地域リハビリテーション支援センター）

若松区（北九州市西部地域リハビリテーション支援センター）

※カッコ内は委託による業務実施者

### 3 対象事例

要支援1・要支援2の事例のうち、以下に該当する事例（既存事例）

- ① 福祉用具貸与のみ利用している事例のうち、手すり、歩行器、歩行補助つえ及び電動車いすを利用している事例
- ② その他福祉用具について相談したい事例

### 4 実施内容

- ① 地域包括支援センターで抽出したケアプランに対してリハビリテーション専門職が点検を行い、助言・提案を行う。
- ② 必要に応じて同行訪問の提案を行い、同行訪問を行った事例については、地域包括支援センターに書面で報告する。

### 5 実施件数

項 目		小倉北区	若松区
ケアプラン確認数		43	18
確認した福祉用具 種類（延べ）	①手すり	22	9
	②歩行器	19	8
	③歩行補助つえ	3	0
	④電動車いす	1	2
	⑤その他	11	1
	合 計	56	20
訪問件数（※全件、歩行器貸与事例）		1	2

### 6 結果

今回、試行的な点検実施であったが、点検事例に対して自立支援に向けた助言・提案を行うことで、福祉用具の適正利用について担当ケアマネジャーの意識の向上を図ることに繋がったと思われる。また、担当者からの連絡により同行訪問を行うなど、より具体的な助言・提案を行うことで担当者との共有が図れたと考えている。

<主な事例概要>

【事例1】

導入している福祉用具	歩行器
経過	ケアプランの確認後、「歩行器の導入により、屋外歩行が維持できている。但し、歩行時のふらつきが見られるため、対応が必要」と助言したところ、同行訪問の希望がある。
支援内容	同行訪問により本人の身体状況の把握し、心身機能維持向上について助言を行った。緑内障、眼圧亢進など他疾患の影響も考えられるため、受診結果をみながらリハビリテーション相談支援事業でフォローアップを行い、運動機会の確保についてケアマネジャーと検討することになった。

【事例2】

導入している福祉用具	歩行器
経過	圧迫骨折での入院加療後のケアプランについて、歩行器のレンタルのみだけでなくリハビリの必要性について確認のコメントを行ったところ、同行訪問に至った。
支援内容	同行訪問により屋外での歩行状態を確認し、歩行器使用が望ましいことを確認した。また、退院後に自宅内で転倒があったため、手すり設置について助言を行った。 現在、医療機関に通院しリハビリテーションを行っているところだが、通院が終了した後のプラン見直しについて提案を行った。